

教養プロジェクトⅡ

小説(1980年までの作品)

経済学科3年
豊島由里子

作品リスト

1. 『オイディプス王』 ソポクレス
2. 『桜の森の満開の下』 坂口安吾
3. 『平家物語』
4. 『夢十夜』 夏目漱石
5. 『銀河鉄道の夜』 宮沢賢治
6. 『檸檬』 梶井基次郎
7. 『車輪の下』 ヘルマン・ヘッセ
8. 『金閣寺』 三島 由紀夫
9. 『失われた時を求めて』 マルセル・プルースト
10. 『古事記』

1. オイディプス王 (ソポクレス)



- ソポクレス
ギリシア三大悲劇詩人の一人
- 紀元前427年頃の作品
- “テーバイ三部作”のひとつ

登場人物

オイディプス：テーバイ王。コリントス王家の跡継ぎとして育つ。

イオカステ：主人公の母にして妻

クレオン：イオカステの弟

ティレシアス：盲目の予言者

コリントスの使者

羊飼

ライオス：主人公の父。

アポロン：神託を与えた神。

あらすじ

「父親を殺し、
母を娶って子をなす」

オイディプス

(コリントス王家)

神託を恐れて国を出る

スフィンクスの謎を解く

過去に神託を受けて子を捨てた。
三叉路で何者かに襲われて死ぬ。

ライオス (故人)

イオカステ

オイディプス

クレオン

(テーバイ王家)

「ライオス殺害
の犯人を捜せ」

物語の原型としての『オイディプス王』

→ 「起承転結」

→ 物語における様々な要素

捨て子

父殺し

近親相姦

犯人捜し

自分探し

※オイディプス・コンプレックス（フロイト）

3. 平家物語



- 作者不詳
- 鎌倉時代に成立
- 平家の栄枯盛衰を描いた軍記物語

4. 夢十夜 (夏目漱石)



- 夏目漱石 (1867~1916)
朝日新聞での連載小説
(1908年7月25日~8月5日)

「こんな夢を見た。・・・」

5. 銀河鉄道の夜（宮沢賢治）



- ・ 宮沢賢治（1896～1933）
作者逝去のため未完成

孤独な少年ジョバンニが、友人カムパネルラと銀河鉄道の旅をする物語

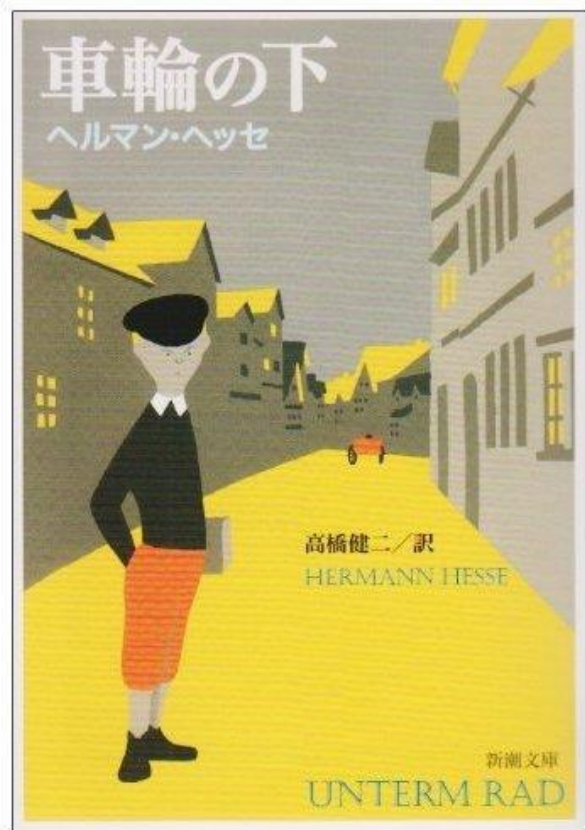
6. 檸檬（梶井基次郎）



・ 梶井基次郎（1901～1932）

得体の知れない憂鬱な心情や、ふと抱いたいたずらな感情を描いた作品

7. 車輪の下 (ヘッセ)
8. 金閣寺 (三島由紀夫)



9. 失われた時を求めて (プルースト)

10. 古事記



2. 桜の森の満開の下（坂口安吾）



- ・ 坂口安吾（1906～1955）
無頼派・新戯作派作家の一人

『墮落論』

『日本文化私観』

『白痴』

川端康成による評価

「すぐれた作家はすべて最初の人であり、最後の人である。坂口安吾氏の文学は、坂口氏があってつくられ、坂口氏がなくて語れない」とその死を悼んだ

あらすじ

昔、鈴鹿峠に山賊が棲み着いた。

通りがかった旅人を身ぐるみ剥がし、連れの女は気に入れば自分の女房にしていた。

山賊はこの山のすべて、この谷のすべては自分の物と思っていたが、桜の森だけは恐ろしいと思っていた。

桜が満開のときに下を通れば、ゴーゴーと音が鳴り、気が狂ってしまうのだと信じていた。

ある春の日、山賊は都からの旅人を襲って殺し、連れの美女を女房にし・・・。

評価

奥野健男（文芸評論家）

「これは天才でなければ絶対に書けぬおそろしい傑作であり、坂口文学の最高峰といえよう」

「「芸術の神か鬼」が書いたとしか思えず、世界の文学の中でもこれほど「美しく、グロテスクで恐ろしい作品」は稀だ」

福田恆存（評論家、翻訳家、劇作家、演出家）

「人間存在そのものの本質につきまとう悲哀」を追求しようとして、安吾は執筆に至たり、素材のもつ現実性を避けるために説話形式をとった